

# 明神さま

宇都宮二荒山神社

「浦安」とは  
四方の海が  
波立たず、

国が平らか  
であり、  
豊かな自然に  
恵まれた  
美しい風土  
を持ち、

昭和天皇御製

天地の神にぞ祈る

あさなぎの

海のごとくに

波たたぬ世を

人々の心が  
いつも穏やかで  
あること。

日本は古来より

「浦安の国」と

呼ばれてきました。

祈年祭・浦安の舞





栃木県立博物館学芸部長 江田郁夫

### 「坂東一の弓矢取り」

中世宇都宮氏は、平安時代の末期から戦国時代の終わりまで、現在の宇都宮市を本拠に活躍した名門武士団です。そのルーツは、平安時代に摂関政治の全盛期を築き上げた藤原道長の兄、道兼にさかのぼります。

道兼の曾孫（もしくは孫）と伝えられる宗円は、十一世紀後半におこった東北地方の戦乱（前九年・後三年合戦）にもなって宇都宮まで下向し、現在の二荒山神社、当時の宇都宮明神の社務を統轄する最高責任者となりました。その地位は、のちに座主、または検校などとよばれています。

### 宇都宮氏略系図（番号は当主の代数）



残念ながら宗円の実像はあきらかではありませんが、その子と伝わる宗綱は八田を名乗って京都、そして東国で武士として活動し、宗綱の子・朝綱は十二世紀後半の源平合戦（当時の年号から治承・寿永の乱とも）で源頼朝に従い、鎌倉幕府の成立を助きました。この功績によって朝綱は、「宇都宮社務職」の地位を頼朝から認められたと、鎌倉幕府の公式記録「吾妻鏡」には記されています。「宇都宮」はもともと神社の名前であり、朝綱はその社務の責任者だったことから

ずからの名字も宇都宮としました。

つまり、中世宇都宮氏の成立は、実質的には三代朝綱の時代ということになります。以後、宇都宮氏は鎌倉幕府の重臣として幕政にたずさわったほか、モンゴル軍の来襲（元寇）や東北地方の治安悪化のさいには、大軍を率いて九州・東北へと下向しています。さらに鎌倉幕府の滅亡につながった元弘の乱でも、近畿地方で抵抗をつづける楠木正成を鎮圧するため、九代当主の公綱が一族・家臣を率いて上洛し、これに対し正成は公綱を「坂東一の弓矢取り」と評したばかりでなく、その家臣芳賀・益子氏らの勇猛ぶりも絶賛し、かれらとの直接対決を避けています。



①宇都宮公綱の軍勢 「太平記絵巻」  
 （埼玉県立歴史と民俗の博物館蔵）

鎌倉幕府滅亡後、六十年以上にわたった戦乱は、天皇家が北朝と南朝に分裂したことから南北朝の内乱とよばれています。この内乱を描いた軍記『太平記』では、芳賀・益子氏ら（本姓の清原・紀氏から紀清両党とも）について、「元来、戦場に臨んで命を棄てる事、塵芥よりもなお軽くす」（もともと戦場で命を捨てることをなんとも思っていない）と記しています。勇猛で知られた東国の武士のなかでも、宇都宮氏が抜群の存在だったことがうかがえます。

公綱の子・氏綱は、室町幕府初代將軍の足利尊氏が弟直義と戦って劣勢となったさいに、いち早く救援に駆けつけ、その恩賞として上野（群馬県）・越後（新潟県）の守護に抜擢されました。守護は、一国の軍事・警察権と行財政権をつかさどる要職であり、氏綱が尊氏からあつい信頼をえていたことがわかります。そもそも氏綱の「氏」の一字は、元服にあたって尊氏から拝領したものであり、尊氏と氏綱は親子同前の間柄だったこととなります。

### 天下統一の総仕上げ、宇都宮仕置

室町幕府の有力大名（関東八屋形）だった宇都宮氏は、幕府の衰退にともない、生き残りをかけて奮闘をつづけます。一般的に戦国時代のはじまりは、十五世紀後半におこった応仁・文明の乱とされていますが、同じころに東国でも三十年近くにわたる戦乱（当時の年号から享徳の乱とも）が勃発し、その影響で宇都宮氏は小山・那須氏などの近隣大名との対立をふかめ、またときには重臣の芳賀氏とも対立することがありました。

そして十六世紀後半には、小田原北条氏、越後の上杉謙信、常陸（茨城県）の佐竹氏などの戦国大名が下野内外にまで勢力を拡大し、宇都宮氏はそのとき



の政治情勢に応じて合従連衡を繰り返しました。大まかに言えば、佐竹氏や近隣大名との同盟を強化し、連合して北条氏に対抗するという構図でした。天正年間（一五七三〜九二）になると北条氏の下野侵攻が本格化し、二十二代当主の国綱は天正十三年（一五八五）八月に軍事的な理由から居城を宇都宮市の西北に位置する多気山に移しました。このうち多気山一帯は「新宇都宮」ともよばれており、多気山への移転が軍事機能のみならず、政治・経済機能にまで及んでいたことがわかります。

本城の移転によって宇都宮周辺の防衛体制が手薄となり、そのすきに北条氏直率いる大軍が同年末の十二月十五日に宇都宮城下に攻め込みました。侵入した北条軍の放火によって、宇都宮のシンボルである明神の社殿をはじめ、これに付属する「楼門・廻廊・日光堂・大御堂・小寺山・蓬萊」、そして興禅寺・東勝寺などの寺院も灰燼に帰したと記録されています（『今宮祭祀録』）。さくら市今宮神社の神職が書き記した『今宮祭祀録』には、北条軍は宇都宮城下を「一処も残らず、ことごとく焼き払う」とあるので、当時の東国で屈指の繁栄を誇っていた宇都宮がこのときの戦火で焼け野原となったことがわかります。

しかし、それからわずか五年後の天正十八年（一五九〇）に北条氏は豊臣秀吉によって滅ぼされ、宇都宮放火の張本人である氏直も高野山（和歌山県）に追放されました。いっぽう、小田原城攻めを終えた秀吉は、鎌倉、江戸を経て宇都宮を訪れ、その後のべ十一日間にわたって宇都宮城に滞在しました。この間、秀吉に従う石田三成・増田長盛らの奉行衆のほか、徳川家康・佐竹義宣ら関東地方の大名、そして伊達政宗・南部信直ら東北地方の大名が宇都宮に勢揃いし、秀吉への忠誠を誓うとともに、秀吉の指示を仰い

でいます。宇都宮滞在中に秀吉が指示・実施した諸策によって天下統一はほぼ完成し、つづいて数日間会津（福島県）に滞在したのち、秀吉は京都に帰りましただけで、まもなく国綱は居城を多気山から宇都宮に戻したので、それ以降は急速に宇都宮の復興が進んだことと思われまます。

国綱から提供された宇都宮城で秀吉が実施した諸策は宇都宮仕置と呼ばれ、長かった東国の戦国状況を終焉に導きました。国綱は秀吉から大名としての存続を認められ、その後も「豊臣」姓・「羽柴」名字を許されて秀吉の一門格となり、朝廷の官職のひとつである侍従にも任じられています。これらは、宇都宮仕置の翌年におこった東北地方での大規模反乱（九戸政実の乱）への出兵のほか、朝鮮出兵にもなう名護屋（佐賀県）在陣など、豊臣政権に対する絶ゆまぬ奉公の賜物でした。



②宇都宮氏の軍旗  
(高津古文化会館蔵)

したがって、慶長二年（一五九七）に突然、秀吉から領地を没収されたときの国綱の驚きは、いかばかりだったでしょうか。三代朝綱がはじめて宇都宮を名乗って以来、四〇〇年以上にわたって宇都宮を治めた名門武士団は、二十二代国綱の代でついに滅び去ったのです。その原因については、所領の過少申告や家臣団の内紛騒動などの諸説があります。宇都宮氏滅亡後

の宇都宮の状況をみるかぎり、北関東の要衝で東北への入口でもある宇都宮支配を託されるためには、政權側からよほどの信頼をえている必要があったように思われます。その点では豊臣政権の奉行で、秀吉と姻戚関係にあった浅野長政との養子縁組が、国綱実弟の芳賀高武の反対で実現できなかったことが最終的には痛手となった模様です。

### 開館三十五周年記念特別企画展

平成二十九年（二〇一七）は、栃木県立博物館が宇都宮市に開館して三十五年目となる節目の年であり、当館ではこれを記念して本年九月十六日（土）から十月二十九日（日）にかけて、特別企画展「中世宇都宮氏―頼朝・尊氏・秀吉を支えた名族―」（以下、宇都宮氏展）を開催します。

この宇都宮氏展では、以上のような宇都宮氏の波乱に富んだ興亡の歴史や、宇都宮歌壇として有名な宇都宮氏の文芸活動、そして法然や親鸞といった著名な宗教家との交流の様子などを、全国に残された二〇〇点以上の貴重な文化財をおしてたどりまます。今回の宇都宮氏展は、中世宇都宮氏をメインテーマとしたはじめての展覧会となります。ぜひこの機会に郷土を代表する名族宇都宮氏を再評価し、あわせて栃木県の豊かな歴史・文化を再認識していただきたいと思います。

### 栃木県立博物館開館 35周年特別企画展

「中世宇都宮氏  
―頼朝・尊氏・秀吉を支えた名族―」

平成29年9月16日（土）  
～10月29日（日）

【場所】  
栃木県立博物館  
宇都宮市睦町2-2

【お問合せ】  
☎028-634-1311



# 七月

## 天王祭

15日(土) 午後6時

16日(日) 午前10時より  
午後1時半より  
親子神輿(城址公園出発)  
神輿渡御(上町地区)  
神輿渡御(下町地区)

時間	祭典	場所
9:30	発興祭	下之宮
10:00	神輿渡御	上町地区
12:30	昼休祭	下之宮
13:30	神輿渡御	下町地区
16:30	還興祭	下之宮



7月15日(土) ~ 20日(水) 6日間

### 渡御とは...

普段は杜深くお鎮まりになっている神様が御神輿にのってお出かけになることです。お手を合わせて拜んでお迎えください。

和みて  
愉快だ  
宇都宮  
UTSUNOMIYA

# 十月

## 菊水祭

28日(土) 上町渡御



時間	祭典	場所
8:30	本社祭	本社
9:00	出御祭	大鳥居内
9:30	風輦渡御	上町北廻り
12:00	昼休祭	石段下
13:00	風輦渡御	上町南廻り
16:00	還御祭	本社

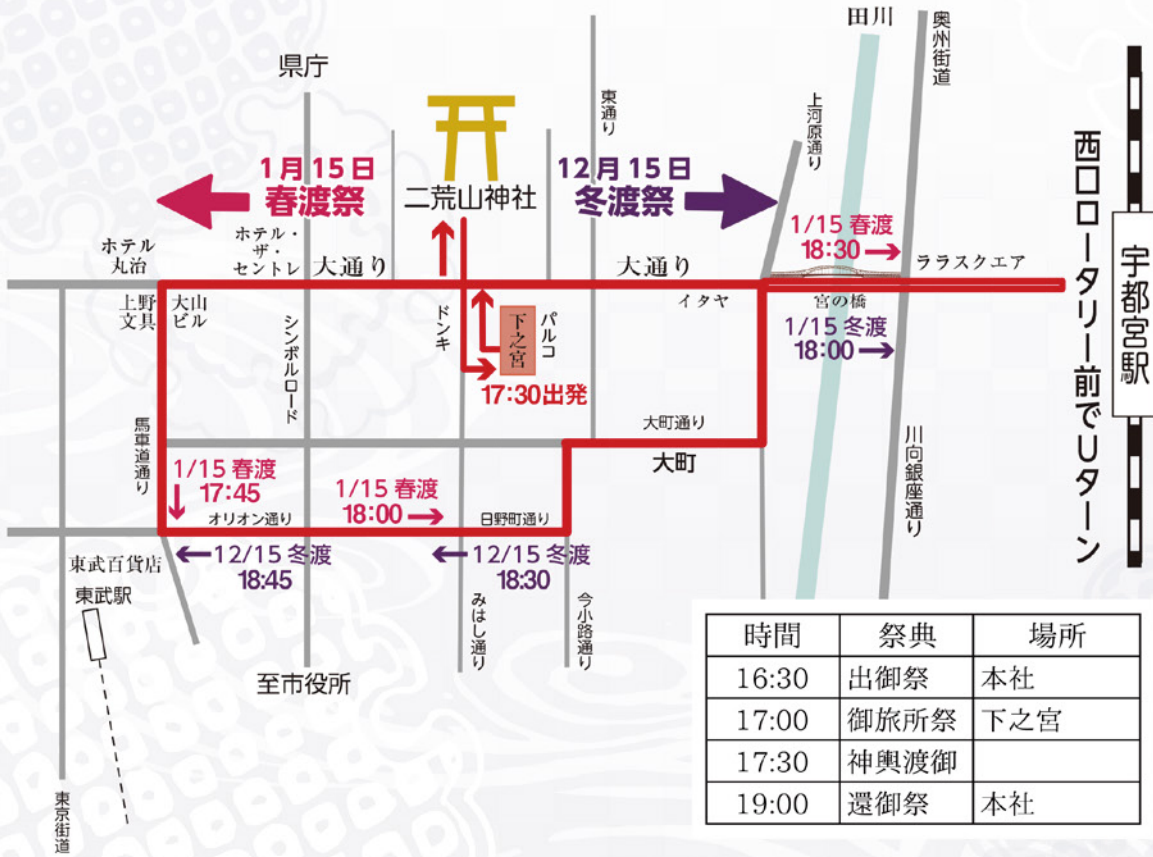
午前順路  
午後順路





# 冬渡祭・春渡祭

冬渡祭 平成29年12月15日(金)  
 春渡祭 平成30年1月15日(月)



和みて  
愉快だ  
宇都宮  
UTSUNOMIYA

渡御のお出迎え  
よろしくお願ひ致します。



29日(日) 下町渡御

午前順路  
午後順路

流滴馬神事 28日・29日両日、鳳輦出御前及び帰還後の2回行います。



## 渡御祭礼協賛者芳名(敬称略)

●(有)福勝不動産 ●松本スポーツ  
 服装店 ●ホテル丸治 ●清水明 ●  
 上野泰男 ●松本功 ●大和証券(株)

宇都宮支店 ●(株)常陽銀行宇都宮支店 ●野村證券(株)宇都宮支店 ●高山忠男 ●玄賛旭 ●下野印刷  
 (株) ●(株)栃木銀行馬場町支店 ●(株)東邦銀行宇都宮支店 ●宇都宮東武ホテルグランデ ●昭和商事  
 (株) ●(株)竹石ビル ●宇都宮証券(株) ●印出井歯科医院 ●秋山塗工(株) ●(株)福田屋百貨店 ●(株)大測 ●  
 大和食品(株) ●(株)福田機械店 ●(株)山本損保プロ保険サービス ●(株)歩行者社 ●(有)鈴木電気 ●関根則  
 次公認会計士事務所 ●合資会社花久 ●福田勝美 ●(有)福田コーポレーション ●(株)佐藤 ●画材額  
 縁白木屋 ●(有)料亭明治屋 ●大谷通り桜会 ●ゆたか陶器 ●荒井一郎 ●高橋勝男 ●中山剛夫 ●(有)  
 堺屋商店 ●時計宝石タケカワ ●(株)足利銀行宇都宮支店 ●フタバ食品(株) ●医療法人至誠会滝澤  
 病院 ●烏山信用金庫 ●栃木トヨタ自動車(株) ●(株)ユニオン上野 ●(有)シンガイ写真館 ●栃木信用  
 金庫 ●(有)長瀬文具店 ●(有)長岡工業 ●宇都宮ブランドホテル ●稲葉勉法律事務所 ●(有)ラッキー  
 デザイン ●あいおいニッセイ同和損害保険(株)栃木支店 ●三栄不動産(株) ●勝田亨 ●鈴木久子 ●  
 片寄トヨ ●照井栄子 ●鈴木洋子 ●池田節子 ●(有)板倉美容院板倉富子 ●森ミサ子 ●(有)シルバー  
 大橋敦司 ●長谷川時計店 ●ビューティーサロンモード ●千蔵工業 ●奥村税務会計事務所 ●所興村  
 正 ●塩井庸次 ●北関東総合警備保障 ●高橋税務会計事務所 ●高橋裕樹 ●国伸総合貿易(有)神戸俊  
 輔 ●銀座齋藤千代子 ●パークラック柿沼典克 ●割烹吉本 ●廻谷賢二 ●田舎料理水月柿沼英雄  
 ●(有)齋藤石村齋藤充 ●(株)五光宇都宮店 ●(株)博報社 ●冨塚メデイカルクリニク ●冨塚浩 ●(株)  
 ケーエフシー ●神戸健弥 ●あら玉 ●(株)板放エンタープライズ ●後藤孝子 ●割烹栢 ●(株)丸美屋 ●  
 関印房 ●ラッキー商会 ●菱沼薬局 ●藤井昌一 ●斎藤商事(株) ●野沢秀輝 ●(株)堀井 ●割烹弁当の  
 新三 ●銘茶関口園 ●(株)バルコ宇都宮店 ●協同組合宇都宮餃子会 ●宇都宮みんみん ●榎屋グル  
 ープ ●榎屋不動産(株) ●医療法人中山会宇都宮記念病院 ●黒崎歯科医院 ●(有)鳥居薬局 ●稲子商店  
 ●メガネサロンサカモト ●ホテルニューイタヤ ●(有)佐野孝商店 ●手塚耳鼻咽喉科 ●(有)丸伊呉  
 服店 ●(株)新三鈴木淑子 ●秋田包装(株) ●小名浜包装資材 ●山二クリーニング ●(有)上野裕司 ●(株)  
 池田亀次郎商店 ●古宮酸素(株) ●(株)町田建塗工業 ●(株)須山液化ガス ●デザインノアルグレイ田代  
 暢雄 ●明治安田生命保険宇都宮支社 ●青源味噌(株) ●アサヒビール(株)栃木支店 ●割烹うをのぶ  
 ●(株)魚よし ●花正 ●(株)虎屋本店 ●(有)仁科権蔵商店 ●(有)オリオン商事 ●(株)井上総合印刷 ●(株)渡  
 辺有規建築企画事務所 ●渡辺建設(株) ●東野交通(株) ●栗田工業(株) ●(株)ダイドードリンコサービ  
 ス ●関東宇都宮営業所 ●四季彩葉虎屋弥生 ●(株)ロココ企画装飾 ●群馬銀行宇都宮支店 ●秋澤信  
 二 ●税理士倉井章事務所 ●(株)福田屋呉服店 ●(有)篠崎允孝商店 ●(株)シノザキ ●小谷野儀一 ●(株)  
 鯨湖建設 ●(株)トーホク ●ホテルサンルート宇都宮 ●合名会社つちや ●宇都宮ステーションホ  
 テル ●(有)森川衣裳店 ●宇都宮卸商業団地協同組合 ●(株)竹石紙店 ●(株)辻由 ●(株)横倉本店 ●栃木  
 小松フオークリフト(株) ●リコーシヤパン(株) ●(株)増測組 ●宇都宮商工会議所 ●(株)宮本印刷 ●小  
 花塗装(株) ●タカクコーボ高工正三 ●(株)コアミ計測器 ●マスター商事(株) ●(有)松村 ●(株)大貫商店  
 ●(株)渡清 ●(株)オアシス ●高林堂 ●割烹中村 ●(有)アサヒ商事 ●(株)三和青果 ●おでんのんき ●カフ  
 エドオリープ

(平成29年4月3日現在)

## 二荒山神社氏子町会

※自治会は省略させていただきます

### 上町

●旭町湖南 ●旭町二丁目中央 ●伊賀町北部 ●池上町 ●泉町 ●一 ●一  
 条町二丁目 ●一条三丁目 ●一条四丁目 ●歌橋町 ●江野町 ●和尚塚南部  
 ●和尚塚二丁目 ●小幡町東部 ●小幡町西部 ●小幡町北部 ●小幡町南部  
 ●河原町 ●北一の沢 ●亀鶴荘 ●清住町 ●小伝馬町 ●寿町 ●幸町 ●境町 ●桜  
 通り ●桜大谷通り ●桜東 ●桜二丁目 ●西原西組 ●三条町北部 ●三条町  
 南部 ●三条町もみじ通り ●材木町通り協和会 ●材木町中央 ●材木町五  
 番 ●昭和通り ●新川 ●新石町 ●杉原尾上町 ●住吉陽西通り ●滝谷町 ●  
 滝谷町東部 ●滝谷町巽 ●大寛一丁目 ●大寛二丁目 ●大寛三丁目 ●北部 ●  
 大寛三丁目南部 ●大黒町 ●中央北部 ●中央二丁目 ●中部 ●鉄砲町 ●伝馬  
 町 ●戸祭西部 ●戸祭二丁目 ●戸祭元町 ●戸祭地区四丁目 ●中戸祭一区  
 ●中戸祭二区 ●錦町一丁目 ●二里山 ●二条町北部 ●西塙田北部 ●西原  
 川向 ●西原佐野街道 ●西原十三町 ●西原太子町 ●西原仲町 ●吉野町 ●  
 西原本町 ●西原末広町 ●西原六道町 ●西大寛中組 ●西大寛本町 ●熱木  
 親交会 ●花園西部 ●花房本町 ●花房一丁目 ●西塙田本通り ●馬場町 ●  
 挽路睡会 ●不動前三丁目睡会 ●蓬萊町 ●星が丘川西 ●曲師町 ●松原 ●  
 松原通り ●松原一丁目東部 ●松が峰 ●操町北部 ●南伊賀町 ●南新町上  
 組 ●南新町下組 ●宮園町 ●茂登町 ●陽南東部 ●四条町上組 ●四条町上  
 組中部 ●四条町南部 ●星が丘西部 ●本郷睡会 ●下戸祭一丁目 ●下戸祭  
 二丁目 ●戸祭町

### 下町

●相生町 ●旭三の丸 ●本丸西部 ●旭南 ●旭町一丁目北部 ●旭町本丸 ●  
 旭二南館 ●今小路 ●今泉町 ●大明 ●扇町 ●大曾二区 ●大曾三区 ●大曾  
 西町 ●小門町 ●押切町 ●小田町 ●御蔵町 ●川向一丁目 ●川向二丁目 ●  
 川向三丁目 ●川向四丁目 ●川向五丁目 ●川向六丁目 ●上河原 ●河原町  
 亀井が丘 ●旭栄町 ●石町 ●小袋町 ●宿郷町二丁目 ●宿郷町三丁目 ●宿  
 郷町三丁目 ●宿郷町四丁目 ●宿郷町五丁目 ●宿郷町六丁目 ●宿郷町八日  
 市場 ●下河原町 ●清水町 ●新宿町 ●千手町 ●大工町 ●二の丸 ●中央三  
 丁目 ●寺町 ●天神町 ●中河原町 ●中河原一丁目 ●中塙田 ●八幡山 ●  
 塙田百目鬼 ●塙田一区 ●塙田二区 ●塙田三区 ●塙田四区 ●塙田  
 田五区 ●塙田六区 ●塙田七区 ●平松町 ●日野町 ●二荒町 ●本丸 ●  
 丸東部 ●峰第一 ●峰町三区 ●宮島町 ●宮町(一区) ●元石町 ●築瀨二  
 丁目上組 ●築瀨旭陵通り ●築瀨三丁目 ●築瀨四丁目 ●築瀨五丁目 ●東  
 築瀨五丁目西 ●築瀨六丁目 ●築瀨七丁目 ●東

## 平成28年度 二荒山神社渡御祭礼会計

歳入の部

歳出の部

科目	金額(円)	項目	金額(円)
氏子町会奉納金	2,276,480	天王祭祭礼費	2,053,395
祭礼協賛金	2,800,000	菊花祭祭礼費	2,758,035
神社補助金	2,500,000	冬春渡祭祭礼費	1,124,920
雑取入	120,010	事務費	263,690
繰越金(前年度より)	1,434,361	雑費	1,591,951
合計	9,130,851	合計	7,791,991

平成28年度

## 渡御祭礼報告

### 天王祭

祭典期間 7月15日(金)～20日(水) 6日間  
 親子神輿対面神事 7月16日(土) 参加27町会 神輿30基  
 須賀神輿渡御 7月17日(日) 下町一上町

### 菊花祭

鳳凰渡御及び 10月29日(土) 下町  
 流籠馬神事 10月30日(日) 上町・火輪太鼓・姥太鼓山車巡行

### おたりのや

冬渡祭神輿渡御 平成28年12月15日(木) 下町一上町  
 春渡祭神輿渡御 平成29年1月15日(日) 上町一下町



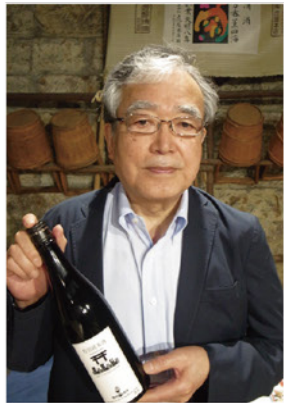


## 株式会社 虎屋本店

### 街の移り変わりをみつめてきた老舗酒蔵

宇都宮市の中心、本町交差点近くに蔵を構える「虎屋本店」。周囲をビルに囲まれたこの地において、昭和にタイムスリップしたかのような雰囲気が漂います。創業は天明8年。230年におよぶ歴史を刻む老舗酒蔵です。

「二荒山神社様には、お酒を納めさせていただいてますし、近いので事あるごとにお参りさせていただいています」と語るのは8代目当主の松井保夫さん。創業時からの看板商品「菊」のほか「七水」など根強いファンの多い銘酒を醸しています。また、宇都宮産の酒米「五百万石」



を100%使った「雷都物語」は、まさに宇都宮の酒。伝統の技に新しい感覚や技術を取り入れ、日本酒振興の一翼を担います。「最近では若い人が酒造りに興味を持ってきて、問い合わせもいただきます」と笑顔の松井社長。同社の社氏、天満屋徳さんも41歳にして全国新酒鑑評会の審査員。酒造りの伝統は着実に継承されています。

▲「雷都物語は100%宇都宮産の米を使った特別純米酒です」と松井社長

住所 宇都宮市本町4番12号(本店・酒蔵)  
TEL 028-622-8223  
FAX 028-666-5566  
HP <https://toratora.co.jp/>

## 株式会社 町田建塗工業

### 左官と二荒山神社との深い絆

創業は明治35年、現社長が5代目。115年にわたって左官一筋で地域に貢献してきた職人集団です。地元では、県庁の昭和館や旧篠原家、また宇都宮城復元工事にも、その技術が駆使されました。左官という伝統の技を継承しながらも新しい技術も積極的に採り入れ、内外に活躍の場を広げています。さらに、モノづくりとともに人づくりにも積極的に、業界に先駆け「SAKAN トレーニングスクール」など新しい教育システムを導入。

お祭りでは塙田睦会として二荒山神社の神輿保存会に参加し、伝統や文化を守り伝えていきます。「ちなみに“左官”という呼称がはっきりと古文書に残されたのは、慶長10年の宇都宮大明神(二荒山神社)御建立勘定目録から、ということが分かっているんです。そんな意味からも二荒山神社との深い絆を感じますね」と語る町田社長。その眼差しから、左官業という仕事への誇りとともに郷土を愛する心が伝わってきます。



▲「信賴・革新・感動」を企業理念として掲げ、職人集団を率いる町田社長

住所 宇都宮市塙田3-1-18(本社)  
TEL 028-622-3264  
FAX 028-622-3265  
HP <http://www.machidakento.co.jp/>

## 寺町自治会

「昔は50世帯くらいが住んでいたのですが、今は20世帯少々。時代の流れとはいえ、すいぶん少なくなりました」と懐かしむように話す、寺町自治会長の磯勝夫さん。宇都宮で最も古い自治会のひとつ、寺町には、その名のとおり生福寺・法華寺・妙金寺の3寺があり、小さい頃は境内でよく遊んだそうです。菊水祭には町内に会所を設け、信仰と伝統を守っていただいています。宮まつりにも神輿で参加しています。「TBC学院が所有するお神輿をお借りし、学生さんたちにも手伝っていただいて参加しています。30年以上続けていて、途中6年程休んでしまいましたが、昨年からまた復活しました。地域の人と学生さんとが一体になってお神輿は、いいですね」とうれしそうな磯さんです。



▲寺町自治会会長 磯勝夫さん

## 中戸祭一区自治会

この春、6年間勤め上げた会長職を後進に譲り、現在は顧問として自治会の運営全般を見守る伊沢敏さん。「うちの自治会は、18ある戸祭地区のなかでも一番の大所帯なんです。ただ、ありがたいことに、若い世代の人たちが非常に協力的で、さまざまな行事や活動もとても盛んなんですよ」と、笑顔で語る伊沢さん。天王祭や宮まつりなどにも地元の柿塚神社の氏子として参加し、祭を盛りたてています。

さらに、毎年春に戸祭小学校の体育館で行われる町内の運動会は、育成会を中心に町内一丸となって盛り上ります。子どもたちから、お爺ちゃんお婆ちゃんたちまでと一緒に楽しんで、世代間のコミュニケーションが図られています。また、町内を流れる釜川の美化など、環境整備活動にも積極的に協力しています。



▲中戸祭一区自治会顧問 伊沢敏さん

うつのみや  
町会じまん  
Vol.3



# ふたあ

かわら版

## 皇霊祭遙拝

皇霊祭は、歴代の天皇・皇后・皇親の霊をまつる儀式で、宮中祭祀のひとつです。

毎年二回、春分日に春季皇霊祭・秋分日に秋季皇霊祭が斎行され、当日は二荒山神社でも遙かに拝み奉り祭典を行っています。

各ご家庭でも御祖先に感謝し、敬神崇祖の心を子々孫々にお伝え下さい。



▲皇居にある皇霊殿に向かって拝礼する。

## 氏子青年会

二荒山神社氏子青年会（横山伸太郎会長）は昭和35年（1960）に発会し、現在会員は40名。年間を通じて神社の祭典、境内の除草奉仕や、県内団体との交流などの活動を行っています。



写真左)  
神社境内の除草奉仕作業

写真右)  
天王祭では城址公園と渡御路の清掃を実施。



祭礼協賛の方々のご芳名（6ページに掲載）を神門前に掲示しご篤志を顕彰致しております。



神恩報賽として  
ご奉納いただきました。

奉納

末社初辰稻荷神社  
大真神一対  
江口弘通殿  
(上三川町)

御本社祭典用  
祓戸金幣及び案  
齋藤哲男殿  
(当社元禰宜)

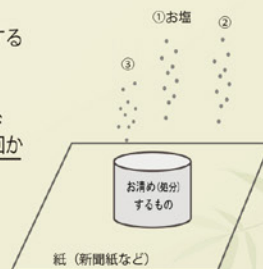
## —おたきあげについて—

二荒山神社でおこなっているお焚き上げ神事は、原則オタリヤの1月15日、12月15日両日です。尚、お焚き上げができるものは、神札・御守・しめ縄やお正月の縁起物のみですのでご注意ください。

人形や神社に関係ないものは、お焚き上げ致しませんので御了承下さい。（右記を参考に、ご自分でお清めをして処分して下さい。）

## 【ご自分でおこなえるお清めのしかた】

- ◇紙（新聞紙など）を広げて、お清め（処分）するものをその上に置きます。
- ◇次に「はらえたまえ、きよめたまえ。」と三回となえて、お清めするものに、お塩を①左②右③左と三回かけます。
- ◇最後にそのまま紙でつつんで処分します。（行政の区分にしたがって廃棄して下さい）



## —鉄製狛犬— 日本一かわいい狛犬

二荒山神社境内の一角にある社務所内には、数々の宝物・文化財が展示されています。武具や刀剣などのなか、ひときわ目をひくのが、国指定重要美術品「鉄製狛犬」。狛犬といっても一般的な唐獅子風のものではなく、日本犬の姿を写實的に表現した非常に珍しいものです。

高さは36cm、重さ22kgほどで、かつては一對存在していたと思われませんが、現在残るのはこの一体のみ。



張った胸や、腰を据えた安定感、首から背にかけての曲線も見事に表現されています。また、垂れた耳や、つぶらな目は愛らしく、見るからに賢そう。今にも尻尾を振って走り寄ってきそうな風情があります。陽鑄の銘文によれば、造られたのは鎌倉時代の建治3年（1277年）、吉田直連によって奉納されたことが分かります。素材は、鑄造の難しい鉄製で、体の中心を走るバリから、左右ふたつに割る型を用いたことが分かります。作者は不詳ながら、佐野の天明鑄物であると伝えられています。体とは別に鑄込まれたと思われる前足は、左側が失われていて、重ねてきた歳月を無言のうちに語っているようです。

ともあれ、この「日本一かわいい狛犬」は、貴重な文化遺産であることは間違いありません。愛犬家のみならず、その愛らしい姿は、見る者の心を癒してくれます。（左前足は保護の為、義足がついています。）